

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平成29年3月期第1四半期決算短信、プレスリリースなど、当社の近況をご報告させていただきます。株主の皆様には今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

① 平成29年3月期第1四半期 業績ご報告

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、足踏み状態が続いております。個人消費は、物価上昇率の低下によって実質所得が押し上げられているものの、名目賃金の伸び悩みや消費者マインドの悪化などから横ばい圏の推移が続いております。そして前年同四半期はうろう年による押し上げの反動、熊本地震の影響、円高の顕在化による輸出の減少などから小幅なマイナス成長となる事が見込まれております。

当社グループの属する業界も、健康意識の高まりが持続し、食品の新たな機能性表示制度が始まり大きな変革期を迎えたものの、一方では相次ぐ異業種を含む大手企業の新規参入など更なる競合が激化し、当社グループを取り巻く環境は依然として厳しいものとなっております。

このような状況のなか、当社グループとしては、「伝統と技術と人材力を価値にする」をビジョンとして昨年6月からの機能性表示食品の新発売など積極的な諸施策・諸活動を展開しております。その結果、売上高は2,697百万円と前年同四半期と比べ376百万円の増収となりました。

利益面においては、売上総利益は1,370百万円と前年同四半期と比べ202百万円の増益となりました。当第1四半期は販売促進費等を抑え気味にし、かつ効果的なプロモーション活動を実施したことや人件費の圧縮等に努めた結果、営業利益は76百万円と前年同四半期と比べ51百万円の増益となり、さらに営業外損益を加えた経常利益は82百万円と前年同四半期と比べ55百万円の増益となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は41百万円と前年同四半期と比べ27百万円の増益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① ヘルスケア事業

当セグメントにおきましては、昨年6月からの機能性表示食品の新発売などにより売上は好調に推移し、その結果、ヘルスケア事業の売上高は1,839百万円と前年同四半期と比べ207百万円の増収となりました。

損益面では、売上高が好調に推移する中、回転率の悪い商品を評価減するなど在庫の整理をした結果、セグメント損失は111百万円と前年同四半期と比べ26百万円の減益となりました。

② カプセル受託事業

当セグメントにおきましては、フレーバーカプセルが引き続き順調に推移した事により、カプセル受託事業の売上高は854百万円と前年同四半期と比べ170百万円の増収となりました。

損益面では、効率的な研究開発投資に努めた結果、セグメント利益は177百万円と前年同四半期と比べ76百万円の増益となりました。

● 平成29年3月期第1四半期の連結業績 (平成28年4月1日～平成28年6月30日)

連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	2,697	16.2	76	211.1	82	213.7	41	186.6
28年3月期第1四半期	2,320	6.0	24	-	26	-	14	-

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 △79百万円(-%) 28年3月期第1四半期 240百万円(-%)

(平成28年8月9日公表)

● 平成29年3月期の連結業績予想 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
第2四半期(累計)	5,000	△0.2	50	△6.4	50	△14.4	20	△53.0
通期	11,000	5.4	450	14.9	450	10.2	300	△20.2

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

② レスキューキット リニューアル

“もしも”の時のために。いつも持参しておきたい

『レスキューキット』

8月16日(火) リニューアル



この度「必要最低限の携帯防災用品」をコンセプトとして発売した「レスキューキット」をリニューアルいたしました。

災害時の建物やエレベーターへの閉じ込め事故などを想定しマスク、呼び笛、蛍光ライト、飲用水2本のセットになりました。

- 【販売名】レスキューキット
- 【価格】1,080円(税込)
- 【内容物】飲用水(20ml)2本、呼び笛1個、マスク1枚、蛍光ライト1個
- 【サイズ】縦160×横80×厚さ23mm

飲用水(20ml)2本

一緒にいる方に渡したり、24時間以上を超えた場合や、お薬を飲む必要がある時などにお使いください。

呼び笛

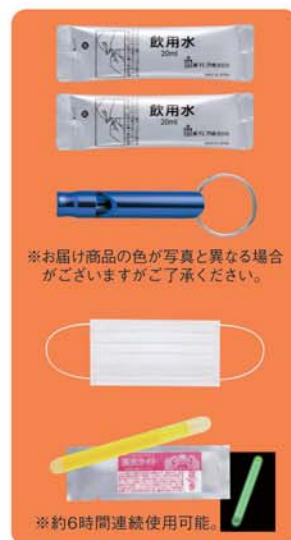
助けを呼ぶ時に使ったり、救助の際に自分の位置を知らせるなどのために使用します。

マスク

周りのホコリなどから身を守るために使用します。

蛍光ライト

暗闇の中で自分の位置を周囲に知らせたり、救助が来た時に居場所を知らせるために使用します。



※お届け商品の色が写真と異なる場合がございますがご了承ください。

※約6時間連続使用可能。

③ 経口ワクチン研究開発に関するお知らせ

当社は、アンジェスMG株式会社(本社:大阪府茨木市、代表取締役社長:山田英)より、同社の保有する日本、米国、中国及び英国における経口投与型子宮頸部前がん病変治療ワクチン(CIN治療ワクチン)の独占的開発・製造・販売に関する権利^{※1}の許諾を受け、CIN治療ワクチンの研究開発を推進することに、同社と基本合意しました。

当社は、この基本合意に基づきアンジェスMGとの正式契約を締結の上、外部の研究機関や企業などと広くアライアンスを組み、事業体制の構築を図ってまいります。

本ワクチンの開発は東京大学大学院医学系研究科産婦人科学講座川名 敬 准教授(東京大学医学部附属病院女性外科副科長)のグループにより医師主導臨床研究^{※2}として進められており、子宮頸部の前がん病変を退縮～消失させ、経口投与で子宮頸がんへの移行を回避できる世界初の治療ワクチンとして期待されている革新的かつ社会的ニーズも非常に高い医薬品です。当社が長年取り組んでいるプロバイオティクス(ビフィズス菌や乳酸菌など)研究や独自の製剤技術^{※3}のさらなる深耕にも資すると判断し、上記権利の許諾を受けるに至りました。

※1 CIN治療ワクチンの独占的開発・製造・販売権はアンジェスMGが韓国のBioLeaders Corporation(バイオリダーズ)から日本、米国、中国および英国における権利として許諾を受けている。

※2 現在、世界で初めて東京大学医学部附属病院において医師主導臨床研究「HPV16型 陽性の子宮頸部中等度上皮内腫瘍性病変(CIN2)に対する乳酸菌を利用したCIN治療薬の探索的臨床研究」(プラセボ対照二重盲検比較試験)が実施されている。本試験の経費については、川名敬准教授が獲得した厚生労働科学研究費補助金(医療技術実用化総合研究事業(臨床研究・治験 推進研究事業))が使用されている。

※3 当社のシームレスカプセル技術。カプセル構成成分の調整により、医薬品成分の活性維持や作用部位への運搬効率の向上などが期待できる。

(ご参考)

CIN治療ワクチン

CIN治療ワクチンは、子宮頸がんの原因ウイルスであるヒトパピローマウイルス(HPV)のたんぱく質に対する特異的な細胞性免疫を子宮頸部粘膜へ効率的に誘導します。これにより、子宮頸部の前がん病変を退縮～消失させ、経口投与で子宮頸がんへの移行回避の効果が期待されます。

④ 「腸内環境を学ぶ実験教室」に協賛しました

超高齢化社会を突き進むこの国で、ひとつのユニークな取り組みが始まっています。

その主役は、これからの時代をつくる子どもたち。

研究者の育成と、次世代の社会を担う子どもたちの育成を両輪で回しながら、科学技術の発展と地球貢献を実現する。

その理念のもとに、第一線の研究者たちが進める、新しい試みをご紹介します。

そのユニークな取り組みをはじめたのは、「科学技術の発展と地球貢献を実現する」掲げる研究者集団・株式会社リバネス(本社:東京都新宿区 代表取締役:丸幸弘)。リバネスは、15名の理工系大学生・大学院生が集まって2002年に設立。社名の由来である“Leave a nest(巣立ち)”は、新たな世界への最初の一步を意味し、自分たちが、子どもたちが、そして社会が成長し、巣立っていく、そのための土壌である巣を作り続けていきたい、という企業理念のもと、創業以来、実験教室を各地で開催し、経験した子どもたちは延べ10万人を超えました。

今まさに現場にいる理系人材の育成と、次世代の社会を担う子どもたちの育成を両輪で回しながら、科学技術の発展と地球貢献を実現するのがリバネスの理念。

さらに新しい試みとして、近年注目を集める腸内環境について、子どもたちの興味を喚起し、理解を促進することを目的に開催したのが、腸内環境をテーマにした実験教室でした。

リバネスと腸内環境デザインを推進するバイオベンチャーである株式会社メタジェン(本社:山形県鶴岡市 代表取締役社長:福田真嗣)との共催にて開催され、自ら健康をつくり出すヘルスビルドの重要性を提唱する私たち森下仁丹株主など、その思いに賛同した企業数社が集まりました。

そうした社会連携の中で生まれたのが「腸内環境を学ぶ実験教室」です。

実験教室は、おなかの中のしくみや働きをわかりやすい講義と楽しいゲームで学び、顕微鏡で細菌を観察する体験などを通して理解を深めていく、子どもたちの学びと遊びの場。

山形県鶴岡市で開催された第一回目の実験教室では、鶴岡市内の小学生30人とそのご家族、総勢60人が集まりました。腸内細菌になりきり陣取りバトルに挑みながら腸内細菌の生態やヒトのかかわりが学べる腸内細菌ボードゲーム『バクテロイゴ』^{※1}が大盛況。また腸内環境研究の第一人者であり、当社との共同開発企業である株式会社

メタジェン^{※2}の代表取締役社長の福田真嗣氏による充実した講演内容も注目を集めました。

※1 腸内細菌ボードゲーム『バクテロイゴ』

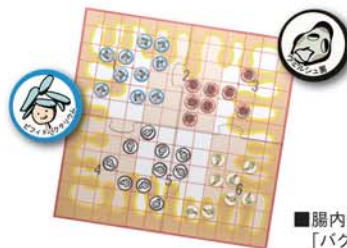
プレイヤーが腸内細菌になりきり、生存をかけた陣取りバトルに挑む画期的なゲーム。(リバネス出版より発売中)

※2 株式会社メタジェンについて

2015年3月設立。本社・山形県鶴岡市。腸内環境をデザインするリーディングカンパニー。慶應義塾大学および東京工業大学の研究分野で培われた確かな解析技術、メタボローム解析とメタゲノム解析をもとに腸内環境を評価し、健康維持に有益な情報を提供することで病気ゼロの社会を目指す。当社とメタジェンは、2015年7月よりメタジェンの持つ独自の解析技術「メタボロゲノミクス™」を用いて、世界初となる生きたまま腸に届いたビフィズス菌がヒトの腸内環境に与える影響について、その詳細を明らかにする初の共同研究をスタートしました。



■実験教室のようす



■腸内細菌ボードゲーム「バクテロイゴ」

「知ってる?おなかの中の100兆個の生き物たち

～研究者と一緒に学ぶ腸内細菌実験教室～概要

日時: 2016年5月28日(土)

場所: 鶴岡メタボロームキャンパス(山形県鶴岡市先端研究産業支援センター)

内容: ■腸内細菌に関する講義

■腸内細菌ボードゲーム「バクテロイゴ」の体験

■腸内環境の研究者による講演